

新千里北町を構成する車止めに関する研究

武部 俊寛^{*1}・太田 博一^{*2}／推薦会員：鈴木 賀^{*3}

^{*1} (近畿大学大学院総合理工学研究科) ^{*2} (千里ニュータウン研究・情報センター代表)

キーワード：新千里北町 (Senri New Town), 車止め (car stop), 道路計画 (road planning)

1. 目的

千里ニュータウンの住区で、1966年にまちびらきをした豊中市新千里北町には、車道と歩行者道路の間に、他住区では見られない特徴的な車止めが多く設置されている。本研究は、この車止めの形状と配置を調査分析し、その計画の意図及びこれらが住民にどのように認識してきたかを明らかにすることを目的とする。

2. 方法

現地調査で個数、形状、色、配置場所を地図にプロットし、現状を把握する。条件を以下のように定義する。

対象範囲	大阪府豊中市新千里北町
対象物	着色されたコンクリート製の固定された車止めの内、形状が特徴的なもの
条件 1	人が通行することのできる道路に設置され、車止めの役割を果たしていること
条件 2	現在の最表面の色を記録する

3. 結果

調査の結果を図1および表1に示す。幾何学属(G)と動物属(A)の2属を確認することができた。幾何学属は4つの型を色分けすると7種28基、動物属は9つの型を色分けした10種24基の計52基が確認された。使われている色は、グリーン(G)、赤(R)、ピンク(P)、黄(Y)、白(W)、ベージュ(B)、水色(BL)の7色が用いられている。

4. 考察

幾何学属は、原則、コの字道路同士を接続する歩行者道路の設置されており、傾斜や階段がある場合は高い方にG3が設置されている。これは、G3が「この先が傾斜もしくは階段になっている」と示していると考えられる。実際、G3とG1もしくはG2の組み合わせと設置場所の傾斜との関係が一致

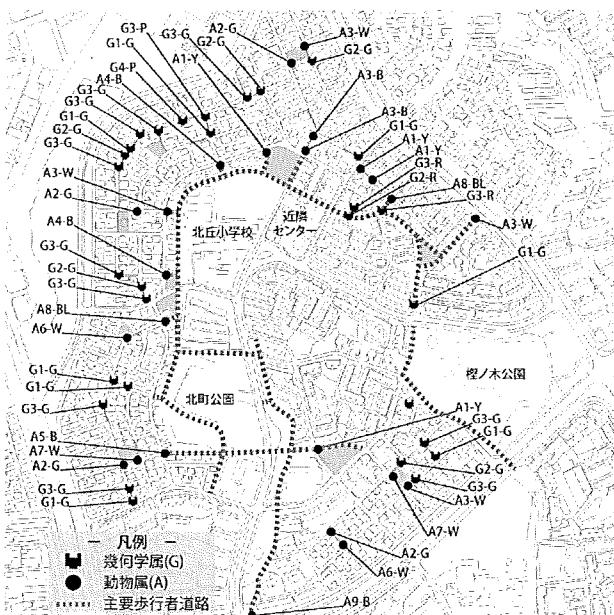


図1 車止めの配置調査

する箇所が8つ確認できる。また、階段を下りてすぐに道路へ接続される場合は、車止めが設置されないなどの設置パターンも確認できた。(表2)

動物属は、小学校や公園などの住区中心部を取り巻く主要歩行者道路に接続する入口に設けられている。さらに、本来は幾何学属の車止めが設置される場所でも、公園や緑地に隣接する場合は、動物属に置き換えて設置されている。(図2)

幾何学属と動物属では、住人の認識や取り扱い方が違う。住人は動物属の場合、思い出を語る際に、「あった」ではなく「いた」と表現する。集合場所に動物の車止めを指定したり、別れる前に話す場に使われたりしていたことからも、思い入れの強い存在となっていることが分かる。

千里ニュータウンは初期から歩車分離の考え方をもって住区ごとに段階的に計画された。しかし、北町はその過渡期で完全な歩車分離ではなく平面交差する箇所ができた。そこで、歩車道の区別を知らせるために車止めが設置されたと考える。

5. 結論

北町の車止めに関して、以下の3点が明らかとなった。

- 1) 車誤進入防止の役割だけでなく、その先の道路形状や周辺環境を歩行者に知らせる役割をもつ。
- 2) 配置にはプロセスやルールがあり、動物属が幾何学属の車止めより、優位な位置づけで計画されたと考えられる。
- 3) 歩車分離計画の過渡期に開発された為、歩車が平面交差する箇所への対応策として、車止めが設置されたと考えられるが、今後も検証が必要である。

参考文献 松本訓明,「千里ニュータウンにおける生活の記録とまちの成熟に関する研究」近畿大学卒業論文, 2014

表1 分類と基数

幾何学属(G)		動物属(A)					
G1-G 8基	G2-G 5基	G2-R 1基	G3-G 10基	A1-Y 4基	A2-G 4基	A3-B 2基	A3-W 4基
G3-P 1基	G3-R 2基	G4-P 1基		A5-B 1基	A6-W 2基	A7-W 2基	A8-BL 2基
							A9-B 1基

表2 車止め設置パターン

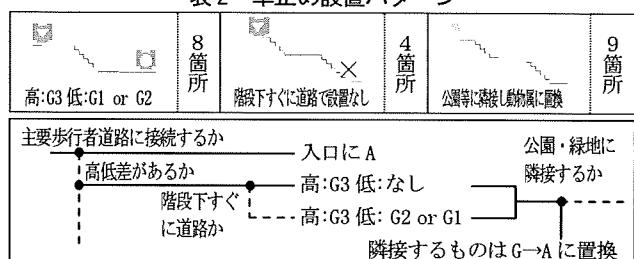


図2 配置フロー

実線:当てはまる, 破線:当てはまらない